



再生時のその他の機能(再生機能)

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、60ページをご覧ください。


自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

操作手順: **[▶](再生)** → **[MENU]** → **再生機能タブ** → **スライドショー**

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像: 静止画、動画、および音声のみの記録  のみ: 静止画、音声付き静止画のみ  のみ: 動画のみ 1枚画像: 好きな画像ひとつのみ([◀] [▶])で表示させる画像を選びます)
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 1~5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1~30秒、または“最速”を [◀] [▶] で選びます。 1~30秒を選ぶと、動画や音声付き静止画、音声のみの記録は最初から最後まで再生されます。 “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。音声のみの記録は再生されません。

エフェクト

希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。
パターン1~5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示、BGMも再生します。

- “パターン1~4”の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。
 - “パターン5”は静止画のみの再生となります。また“間隔”の設定も無効になります。
 - 下記の場合は、特殊効果が無効になります。
 - 表示画像を“のみ”、“1枚画像”にした場合
 - 間隔を“最速”、“1秒”または、“2秒”にした場合
 - 動画やボイスレコードの再生の前後
- 切:特殊効果とBGMの再生をしない。

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

設定可能なファイル

- IMA-ADPCM形式のWAVファイル
- サンプリング周波数:22.05kHz/44.1kHz
- 音質:モノラル

設定可能なファイル数: 9 ファイル

ファイル名:SSBGM001.WAV~SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んで、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する(111、124ページ)

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク(ドライブ)」として認識します。

- Windows
 - ① Windows XP: “スタート” → “マイコンピュータ” の順でクリック
Windows Vista: “スタート” → “コンピュータ” の順でクリック
Windows 2000/Me/98SE/98: “マイコンピュータ” をダブルクリック
 - ② “リムーバブルディスク” をダブルクリック
- Macintosh
 - ① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM” フォルダを作成する

4. 作成した “SSBGM” フォルダをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
- フォルダについては129ページを参照してください。

5. カメラをパソコンから取りはずす(113、125ページ)

複数の写真を組み合わせた写真を作る(レイアウトプリント)

操作手順: **[▶]**(再生) → **[MENU]** → 再生機能タブ → レイアウトプリント

あらかじめ用意された複数のフレームに撮影済みの静止画をレイアウトして、新たに保存することができます。



レイアウトパターン
(2枚)



レイアウトパターン
(3枚)

1. **[◀]****[▶]**で好きなレイアウトパターンを選び、**[SET]**を押す

2. **[◀]****[▶]**で背景の色を選んで、**[SET]**を押す

3. **[◀]****[▶]**でレイアウトする画像を選び、**[SET]**を押す

4. 残りのフレームについても、**[SET]**を押し、手順3を繰り返す
最後の画像をレイアウトし終わると、レイアウトした画像が保存されます。

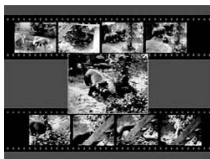
参考

- レイアウト上のすべての写真ははめ込まないと、写真は保存されません。
- 画像サイズが“3:2”、“16:9”の場合、レイアウトできません。
- レイアウトした画像の日付は、レイアウトした日付ではなく、レイアウトした最後のフレームを撮影した日付が表示されます。
- 画像サイズは7M(3072×2304 pixels)で保存されます。

動画から静止画を作成する(モーションプリント)

操作手順: **[▶]**(再生)→動画を表示→**[MENU]**→再生機能タブ→モーションプリント

1. **[▲]****[▼]**で“9コマで作成”または“1コマで作成”を選ぶ
“9コマで作成”では手順2の場面が中央に最も大きくレイアウトされます。



9コマで作成



1コマで作成

2. **[◀]****[▶]**で静止画にしたい場面を探す
[◀]**[▶]**を押し続けると、早戻し/早送りができます。




3. **[SET]**を押す

- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

動画をカットする(ムービーカット)

操作手順: **[▶]**(再生)→カットしたい動画を表示→**[MENU]**→再生機能タブ→ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット(削除)できます。

 カット(前カット)	選択した場面から前をカットします。
 カット(中カット)	選択した場面と場面の間をカットします。
 カット(後カット)	選択した場面から後をカットします。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

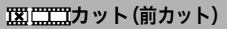
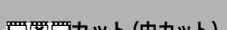
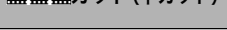
2. 【◀】【▶】を押して、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

- 動画を再生し、【SET】を押して一時停止することで、カットしたい位置を探すこともできます。再生中は【◀】【▶】を押して、早戻し/早送りすることができます。



カットされる範囲(赤い部分)

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

 カット(前カット)	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
 カット(中カット)	① カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
 カット(後カット)	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

参考

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。
- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。

- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して、一時停止し、【▼】と押して、カットすることもできます。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

操作手順: 【▶】(再生) → 静止画を表示 → 【MENU】 → 再生機能タブ →
ダイナミックレンジ

撮影した画像の明るさを保ったまま、黒つぶれを軽減します。

拡大+2	"拡大+1"より黒つぶれが軽減されます。
拡大+1	黒つぶれが軽減されます。
キャンセル	黒つぶれの軽減は行いません。







参考

- 撮影時にダイナミックレンジを補正することもできます(74ページ)。
- 補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

操作手順: 【▶】(再生) → 静止画を表示 → 【MENU】 → 再生機能タブ →
ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

 太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
 曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
 日陰	ピルの陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
 N 昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 D 昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 電球	電球の雰囲気を出して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(73ページ)。
- 補正した画像は、補正前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)


操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** → 再生機能タブ → 明るさ編集

+2(もっとも明るい)から-2(もっとも暗い)までの5段階から選べます。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

黒板やポスターを正面から見たように補正する(アングル補正)

操作手順: 【】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→アングル補正

撮影した写真などの静止画を、正面から撮影したように(長方形・正方形に)ゆがみを補正することができます。補正した画像は2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 【◀】【▶】で補正候補を選ぶ


2. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す



参考

- 補正前の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、補正前の画像と同じサイズで保存されます。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- アングル補正した画像をカメラで表示した場合、日付はアングル補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

古く色あせた写真を補正する(退色補正)

操作手順: 【】(再生)→静止画を表示→【MENU】→再生機能タブ→退色補正

デジタルカメラで撮影した古く色あせた写真を、後から退色の補正をすることができます。補正した画像は2M(1600×1200 pixels)のサイズで保存されます。

1. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選ぶ

2. **[▲][▼]**で“決定”を選び、**[SET]**を押す

液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

3. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大／縮小し、補正する画像の大きさを決める

4. **[▲][▼][◀][▶]**で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、**[SET]**を押す

参考

- 補正前の画像サイズが2M(1600×1200 pixels)より小さい場合は、補正前の画像と同じサイズで保存されます。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 退色補正した画像をカメラで表示した場合、日付は退色補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。


印刷する画像を選ぶ(プリント設定)

操作手順: **[▶]**(再生) → **[MENU]** → 再生機能タブ →
プリント設定(DPOF)

詳しくは102ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)


操作手順: **[▶](再生)** → **[MENU]** → **再生機能タブ** → **プロテクト**

オン	<p>ファイルごとにプロテクトをかけます。</p> <ol style="list-style-type: none">① [◀][▶]でプロテクトをかけたいファイルを表示させる② [▲][▼]で“オン”を選び、[SET]を押す プロテクトがかかり、“On”が表示されます。③ 続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す <p>プロテクトの設定をやめるには、[MENU]を押します。プロテクトを解除するには手順②で“オフ”を選んで[SET]を押します。</p>	
全ファイルオン	<p>すべてのファイルにプロテクトをかけます。</p> <ol style="list-style-type: none">① [▲][▼]で“全ファイル オン”を選び、[SET]を押す② [MENU]を押す <p>すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全ファイル オフ”を選んで[SET]を押します。</p>	

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(149ページ)を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する(日時編集)

操作手順: **[▶](再生)** → **静止画を表示** → **[MENU]** → **再生機能タブ** → **日時編集**

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】 	12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

日時を変更した後は【SET】を押して修正結果を確定させます。

参考

- タイムスタンプ機能(143ページ)で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年～2049年です。

画像を回転させる(回転表示)

操作手順: **【▶】(再生) → 静止画または動画を表示 → 【MENU】 → 再生機能タブ → 回転表示**

1. **【▲】【▼】**で“回転”を選び、**【SET】**を押す
【SET】を押すことに、90° 左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら**【MENU】**を押す

参考

- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 12画面表示、カレンダー表示、画像ルーレットでは、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** → 再生機能タブ →
リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は7M/4M/VGAの3種類が選択できます。

- “16:9”、および“3:2”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

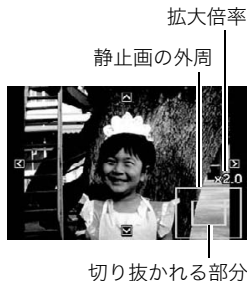
静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** → 再生機能タブ →
トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、**[▲]****[▼]****[◀]****[▶]**で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて**[SET]**を押します。

- “3:2”、“16:9”の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。



静止画に音声を付ける(アフレコ)

操作手順: **[▶]**(再生)→静止画を表示→**[MENU]**→再生機能タブ→アフレコ

撮影した静止画に、あとから音声を付けることができます(音声付き静止画)。静止画に一度付けた音声を録音し直すこともできます(ひとつの静止画につき最長約30秒まで録音できます)。



録音可能時間

2. もう一度シャッターを押して録音を終了する

- 録音中は指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 音声のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 録音形式: WAVE/IMA-ADPCM記録形式(拡張子はWAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 下記の画像に、音声を追加することはできません。
 - モーションプリント機能により作成した画像
 - プロテクトをかけた画像
- 音を消したいときは“アフレコ”を選んだあと“消去”を選び、**[SET]**、**[MENU]**の順で押してください。




重要

- 音声を消去、変更すると、音声を元に戻すことはできません。

録音した音声を聞くには

1. 再生モードにして【◀】【▶】で音声付き静止画を表示させる

ファイル形態のアイコン“”が表示されるファイルが音声付き静止画です。

2. 【SET】を押して、再生を始める

音声の再生中にできること

早送り/早戻しする	【◀】【▶】
再生/一時停止	【SET】
音量を調節する	【▼】を押したのち【▲】【▼】 を押す
表示内容を切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】



- 音声付き静止画はパソコンに保存して、Windows Media PlayerやQuickTimeで再生することができます。

ファイルをコピーする(コピー)

操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** → 再生機能タブ → コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵 → カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード → 内蔵	カード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。 ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダにコピーされます。 ① [◀] [▶] でコピーしたいファイルを選ぶ ② [▲] [▼] で“コピー”を選び [SET] を押す

参考

- コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。
- コピーしたファイルをカレンダー表示した場合、ファイルはコピーした日付上に表示されます(79ページ)。

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

お店で プリントする*

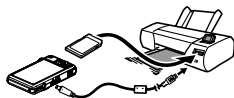
画像が入ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。



プリンターで プリントする*

メモリーカードスロット付のプリンターで印刷する

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書にしたがって操作してください。



カメラを直接プリンターにつないで印刷する

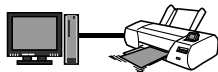
PictBridgeに対応しているプリンターでプリントします。

パソコンを使って プリントする

Windowsパソコンにつないだパソコンで印刷する

付属のソフト(Photo Loader with HOT ALBUM)をパソコンにインストールした後、プリントします。

→「Photo Loader with HOT ALBUMをインストールする」(115ページ)



Macintoshにつないだパソコンで印刷する

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。

※ プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→102ページ

カメラをPictBridge対応のプリンターにつないでプリントする

付属のUSBケーブルでPictBridge対応のプリンターとカメラを接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

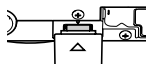
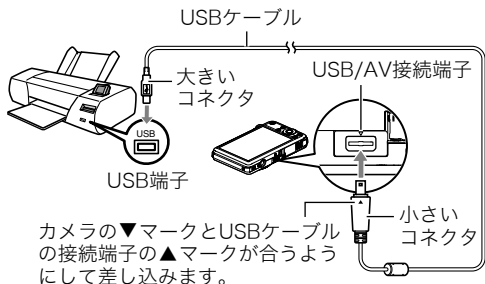
■ 接続前の設定

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“PTP(PictBridge)”を選び、【SET】を押す

■ プリンターとの接続

付属のUSBケーブルでカメラとプリンターのUSB端子を接続します。

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。



■ プリントする

1. プリンターの電源を入れ、印刷用紙をセットする

2. カメラの電源を入れる

プリントメニュー画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“用紙サイズ”を選び、【▶】を押す



4. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次の通りです。
“L判”、“2L判”、“はがき”、“A4”、“Letter”、“プリンタで設定”
- “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

5. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント : 1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】
【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント : 複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能(102ページ)で設定した画像がプリントされます。

- 日付印刷の有無を切り替えるには、【BS】(🗑️)を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされません。



6. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中です しばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順5から同様の操作を行ってください。

7. プリントが終了したらカメラの電源を切り、カメラとUSBケーブルをはずす

プリントする画像や枚数を指定しておく (DPOF)


■ DPOF (Digital Print Order Format) とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。




■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順: 【】→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)→選択画像

1. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる


2. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【BS】()を押して日付印刷を“あり”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。

3. 【SET】を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順：【】→【MENU】→再生機能タブ→プリント設定(DPOF)→全画像

1. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【BS】()を押して日付印刷を“あり”にします。

2. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで 設定する	DPOF機能で設定する(102ページ) 印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する(143ページ) <ul style="list-style-type: none">撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれ、印刷時には必ず日付が印刷されます(写し込まれた日付は消去できません)。タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで 設定する	付属のソフト「Photo Loader with HOT ALBUM」(107ページ)で日付を入れてプリントする(Windowsパソコンの場合)
お店に 依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

■ 本機の対応規格





- PictBridge
カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。
- PRINT Image Matching III
PRINT Image Matching III対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image Matching及びPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
- Exif Print
Exif Print(Exif2.2)は、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。



パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

<p>パソコンに画像を保存して見る</p> 	<ul style="list-style-type: none">• 手動でパソコンに保存して見る (USB接続) (110、123ページ)。• 自動的にパソコンに保存して見る (Photo Loader with HOT ALBUM※) (115ページ)。撮影日別に整理をしたり、カレンダー形式で一覧表示したりできます。
<p>パソコンに保存した画像をカメラに戻す</p> 	<p>画像以外にも、パソコンに表示されている画面をカメラに転送できます (Photo Transport※) (119ページ)。</p>
<p>動画を再生・編集する</p> 	<ul style="list-style-type: none">• 動画を再生することができます (QuickTime 7 (117、126ページ))。• 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。
<p>パソコンのさまざまなデータをカメラに転送する</p> 	<p>パソコンで見ることのできるドキュメント・電子本・Webページなどをカメラに転送することができます (CASIO DATA TRANSPORT (131ページ))。</p>

※ Windows専用です。

カメラとパソコン、付属のソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(107ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(123ページ)

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して見る	Vista/XP/2000/Me	インストールする必要はありません。	110
	98SE/98	USB driver Type B USBドライバはカシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://dc.casio.jp/)からダウンロードしてください。	110
パソコンに自動的に画像を保存/画像の管理	Vista/XP/2000	Photo Loader with HOT ALBUM 3.1 DirectX 9.0c (パソコンにDirectX 9.0以上がないとき)	115
動画の再生	Vista/XP(SP2)/2000(SP4)	QuickTime 7	117

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
動画の編集	Vista/XP/ 2000/Me/ 98SE/98	－ • 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。	－
YouTubeサイトへの動画のアップロード	Vista/ XP(SP2)/ 2000(SP4)	YouTube Uploader for CASIO	117
カメラへの画像の転送	Vista/XP/ 2000/Me/ 98SE/98	Photo Transport 1.0	120
書類データの転送	Vista/XP/ 2000	CASIO DATA TRANSPORT 1.0	131
電子本の転送	Vista/XP/ 2000	T-Time	131
取扱説明書を表示	Vista/ XP(SP2)/ 2000(SP4)	Adobe Reader 8 (すでにインストールされているときは、不要です。)	122
	Me/98SE/ 98	－ • パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからOSにあったバージョンをインストールしてください。	－

■ 同梱ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによって、パソコンに必要な動作環境が異なります。各ソフトをインストールするときに“お読みください”を読んでご確認ください。「同梱ソフト使用時の動作環境について(160ページ)」にもまとめて記載しています。

■ 英語版のソフトを利用するときは

- CD-ROMから英語のソフトをインストールしてください。ただし、日本語版と英語版を2重インストールしないでください。
- 英語版のソフトをインストールするときは、CD-ROMをパソコンにセットして、MENU画面が表示されたら、“Language”の“English”をクリックします。

■ 同梱ソフトをWindows Vistaで使用する場合のご注意

- Photo Transportは、64bitのWindows Vistaには対応していません。
- DirectX、T-Time、Adobe Reader、QuickTime以外の同梱ソフトは、管理者(Administrator)権限以外は使用できません。
- 自作パソコンやデュアル環境でのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。
- 以前購入されたカメラに同梱のPhoto Loaderで保存している画像データは、Photo Loader with HOT ALBUMに移行することで引き続きお使いいただけます。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

Windows 98SE/98の場合は、USBドライバをインストールする必要があります(107ページ)

USBドライバは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://dc.casio.jp/>) からダウンロードしてください。

Windows 98SE/98の場合は、USBドライバをインストールする前にカメラとパソコンを接続しない!

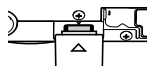
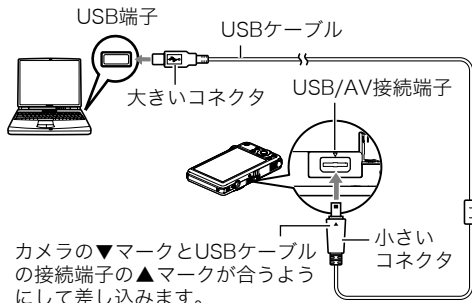
パソコンがカメラを認識しなくなります。Windows 98SE/98をお使いの場合、必ず最初にUSBドライバをインストールしてください。インストールが終わるまで、カメラとパソコンを接続しないでください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿ししないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。

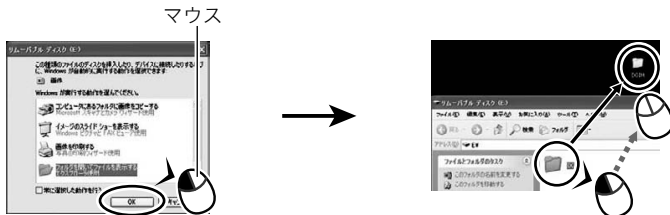


5. カメラの電源を入れる

6. 画像をパソコンにコピーする

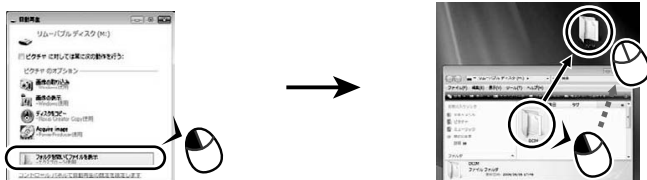
Windows XP

- ① “フォルダを開いてファイルを表示するエクスプローラ使用”を選んで“OK”をクリックする
- ② “DCIM”フォルダをドラッグアンドドロップしてWindowsのデスクトップにコピーする



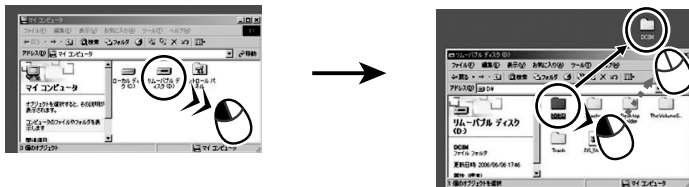
Windows Vista

- ① “フォルダを開いてファイルを表示—エクスプローラ使用”を選ぶ
- ② “DCIM”フォルダをドラッグアンドドロップしてWindowsのデスクトップにコピーする



Windows 2000/Me/98SE/98

- ① “マイコンピュータ”をダブルクリックする
- ② “リムーバブルディスク”をダブルクリックする
- ③ “DCIM”フォルダをドラッグアンドドロップしてWindowsのデスクトップにコピーする



7. コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす

Windows Vista/Windows XP/98SE/98

カメラの【ON/OFF】を押して電源を切り、後面ランプが消灯したのを確認してからカメラをパソコンからはずす。

Windows 2000/Me

パソコン画面のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択する。その後、後面ランプが消灯したのを確認してから、カメラの【ON/OFF】を押して電源を切りカメラを取りはずす。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く



2. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く



3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(129ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。



重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。
- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

パソコンに自動的に画像を保存する／画像を管理する

パソコンに自動的に画像を保存したり管理するには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Loader with HOT ALBUMをパソコンにインストールします。



■ Photo Loader with HOT ALBUMをインストールする

1. パソコンを起動し、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

メニュー画面が表示されます。パソコンの設定によっては、自動的にメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、AutoMenu.exeをダブルクリックしてください。



-
2. “Photo Loader with HOT ALBUM 3.1”をクリックして選び、“お読みください”をクリックして読む
インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

-
3. Photo Loader with HOT ALBUMの“インストール”をクリックする

-
4. 画面の指示にしたがって操作する

Photo Loader with HOT ALBUMがインストールされます。

DirectXの確認

Photo Loader with HOT ALBUMで取り込んだ画像を管理するには、パソコンにDirectX 9.0以上がインストールされている必要があります。以下の手順でDirectXのバージョンを確認してください。

1. “スタート”→“すべてのプログラム”→“アクセサリ”→“システムツール”の順でたどり、“システム情報”を開く
-
2. メニューバーから“ツール”→“DirectX 診断ツール”の順で開く
“システム”タブをクリックし、“DirectX バージョン”が9.0以上であることを確認してください。
-
3. “終了”をクリックして「DirectX 診断ツール」を終了する
 - DirectX 9.0以上がインストールされていない場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールしてください。

動画を再生する

動画はQuickTime 7以降をインストールすると再生することができます。パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。



■ QuickTime 7のインストール

1. CD-ROMのメニュー画面(115ページ)で“QuickTime 7”を選ぶ
2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

■ 動画再生時の推奨動作環境

OS : Windows Vista/XP(SP2)/2000(SP4)
CPU : Pentium M、1GHz 以上Pentium 4、2GHz 以上
必要なソフトウェア: QuickTime 7、DirectX 9.0c 以上

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

YouTubeに動画をアップロードする

ベストショットモードの“YouTube”のシーンで撮影した動画ファイルを簡単にYouTubeのWebサイトへアップロードするには、付属のCD-ROMに収録されているYouTube Uploader for CASIOをパソコンにインストールします。

■ YouTubeとは

YouTube, LLC社が運営する動画サイトです。YouTubeでは、動画の閲覧や動画をアップロードすることができます。

■ YouTube Uploader for CASIOをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面(115ページ)で“YouTube Uploader for CASIO”を選ぶ

2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

■ 動画ファイルをYouTubeにアップロードする

- YouTube Uploader for CASIOを使用する前にYouTubeのWebサイト (<http://jp.youtube.com/>) でユーザー会員登録をしてください。
 - 著作権(著作隣接権を含みます)により保護されているビデオは、ご自身が権利を有しているか、関係する権利者から許可を得ている場合を除いてアップロードしないでください。
 - アップロードできるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大100MBです。
1. ベストショットモードの“YouTube”のシーンで動画を撮影する

 2. あらかじめパソコンをネットワークに接続しておく

 3. カメラをパソコンに接続する(110ページ)

4. カメラの電源を入れる

YouTube Uploader for CASIOが自動的に起動します。

- 初めて起動したときは、YouTubeのユーザーID、パスワード、お使いのネットワークの環境を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

5. 画面左側に動画ファイルをアップロードするのに必要なタイトル、カテゴリー等が表示されるので、動画ファイルをアップロードする際に必要な情報を入力する

6. 画面右側に動画ファイルのリストが表示されるので、アップロードしたい動画ファイルのチェックボックスにチェックを入れる

7. すべての準備が整ったら、[アップロード]ボタンをクリックする

動画ファイルがWebサイトに転送されます。

- ファイル転送が終わったら、[終了]ボタンをクリックし、アプリケーションを終了してください。

パソコンに保存した画像をカメラに戻す

パソコンに取り込んだ画像をもう一度カメラへ戻すには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Transportをパソコンにインストールします。

■ Photo Transportをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面(115ページ)で“Photo Transport”を選ぶ

2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

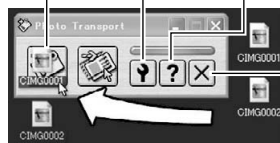
■ 画像をカメラに転送する

1. “スタート” → “すべてのプログラム” → “Casio” → “Photo Transport” の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

2. 転送したい画像ファイルを [転送ボタン] にドラッグアンドドロップする

[転送ボタン] [設定ボタン] [ヘルプボタン]



[終了ボタン]

3. 画面の指示にしたがって操作する

画像ファイルがカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送するデータについて

- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
.jpg、.jpeg、.jpe、.bmp(.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます)
- 画像によっては一部転送できない場合があります。
- 動画は転送できません。

■ パソコンの画面をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する(110ページ)

2. “スタート”→“すべてのプログラム”→“Casio”→“Photo Transport”の順でクリックする

Photo Transportが起動します。


3. 転送したい画面を表示する

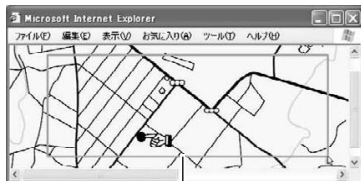
4. [キャプチャーボタン]をクリックする



[キャプチャーボタン]

5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に“” (矢印)を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらします。



転送される範囲

6. 画面の指示にしたがって操作する

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。
- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

■ 設定/ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

取扱説明書(PDFファイル)を読む

取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、Adobe Readerをインストールしてください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録をすることができます。

- 下記のアドレスからユーザー登録ができます。

<http://www.casio.jp/reg/dc/>

登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

下記の方法でも登録できます。

1. CD-ROMのメニュー画面(115ページ)で“オンラインユーザー登録”を選んだ後、画面の指示に従って操作する
-
2. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了する

Macintoshを利用する

Mac OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して見る	Mac OS 9	インストールする必要はありません。	123
	Mac OS X		
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	Mac OS 9	市販のソフトをご利用ください。	126
	Mac OS X	OSにバンドルされているiPhotoが利用できます。	
動画の再生	Mac OS 9	再生できません。	126
	Mac OS X	OS X v10.3.9以降で、QuickTime 7以降がインストールされていれば再生できます。	126
書類データの転送	Mac OS X	CASIO DATA TRANSPORT 1.0	133
電子本の転送	Mac OS X	T-Time	133

画像をパソコンに保存する／パソコンで見ると

重要

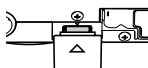
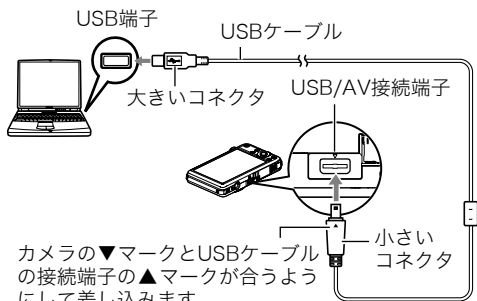
- Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X(10.1、10.2、10.3、10.4)のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“USB”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。



5. カメラの電源を入れる

カメラの後面ランプが緑色に点灯します。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OS のバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。



6. 表示されたドライブをダブルクリックする

7. “DCIM”フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

8. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

9. カメラの【ON/OFF】を押して電源を切り、緑の後面ランプが消灯したのを確認してから、カメラをパソコンからはずす

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. “DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(129ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

重要

- 内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。
- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

パソコンに自動的に画像を保存する／画像を管理する

Mac OS Xをお使いの場合は、OSにバンドルされているiPhotoを使って画像ファイルの管理ができます(Mac OS 9をお使いの場合は、市販のソフトをご利用ください)。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。



■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : Mac OS X v10.3.9以降

QuickTimeバージョン : QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 上記動作環境のパソコンでも、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。
- OS 9では動画ファイルは再生できません。

|| ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。「カシオ デジタルカメラオフィシャルWebサイト」で登録を行ってください。

ユーザー登録アドレス <http://www.casio.jp/reg/dc/>

ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されていますので、ご確認ください。ユーザー登録はデジタルカメラ本体やその他情報発信を目的としています。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが、個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(129ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録した ファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁) 拡張子
フォルダ	“100CASIO”から“999CASIO”までです。最大900のフォルダが作成されます。 <ul style="list-style-type: none">• ベストショットモードにはオークションサイトへの出品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100_AUCT」となります。• ベストショットモードにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダ名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダ名: 100CASIO 連番(3桁)

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、167ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

メモリー内のデータについて

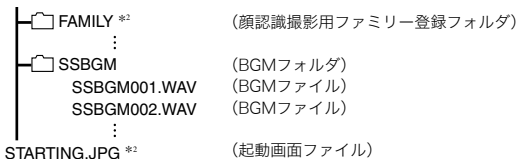
本機で撮影された画像は、DCF (Design rule for Camera File system) 規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。また、DCF規格対応の他社のカメラの画像も本機で見ることができます。

■ メモリー内のフォルダ構造





- *1 ベストショットモードにはオークションサイトへの出品品を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100_AUCT」となります。また、ベストショットモードにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダ名は「100YOUTB」となります。
- *2 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
 - DCF規格に対応している画像ファイル
- DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が129ページのフォルダ構造の通りである必要があります。
- メモリーカードはPCカードアダプターやメモリーカードリーダー／ライターで直接パソコンに読み込むことができます。